

## 道徳科の授業及び評価

徳島県教育委員会

1

## 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

2

これまでは

- 手段やねらいの設定が不十分な単なる生活体験の話合いの指導
- 読み物の登場人物の心情理解のみに終始する指導
- 望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始する指導

といった授業も見られた。

3

これまでの課題を踏まえて

授業の質的転換が求められている



目指す道徳科の  
学習活動の姿は？

道徳科の目標に示されている

4

# 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

5

多様な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己の関わりで(広い視野から)多面的・多角的に捉え、自己の(人間としての)生き方について考えること

28. 12. 21 中央教育審議会 答申 より

道徳科における

## 主体的・対話的で深い学び

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え・議論する道徳」の実現

6

## 深い学びにつながる指導方法の例

### ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的価値の理解を深めること

### ・問題解決的な学習

児童生徒の考えの根拠を問う発問や、問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問などを通じて、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせること

### ・道徳的行為に関する体験的な学習

疑似体験的な活動(役割演技など)を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することで、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うこと

7

道徳科における問題とは道徳的価値に根ざした問題であり、単なる日常生活の諸事情とは異なる。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳 編

## 問題解決的な学習の道徳的な問題例

- ①道徳的価値が**実現されていない**ことに起因する問題
- ②道徳的価値について**理解が不十分**または**誤解**していることから生じる問題
- ③道徳的価値のことは理解しているが、それを**実現しようとする自分とそうでない自分との葛藤**から生じる問題
- ④複数の道徳的価値の間の**対立**から生じる問題

8

道徳的行為に関する体験的な学習等  
を取り入れる工夫

読み物教材等の活用

教材に登場する人物等の言動を即興的に演じて考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習

単に体験的行為や活動そのものを目的とするのではなく、体験的行為などを通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要

9

これらは多様な指導方法の一例であり、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。

生徒の発達段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

10

## 道徳科の授業で大切なこと

道徳科のねらい(道徳的価値)を踏まえ、道徳科の授業で児童生徒に、何について考えさせ、何に気づかせたいのかを明確にすること

指導過程、指導方法、教材・教具等の工夫は、**目的ではなく手段**である

11

## 道徳科における評価の意義

教師

児童生徒

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

指導に生かされ、児童生徒の成長につながるものでなくてはならない。

12

## これまで行ってきた道徳教育の評価

### 行動の記録

- 基本的な生活習慣
- 健康・体力の向上
- 自主・自律
- 責任感
- 創意工夫
- 思いやり・協力……

### 総合所見及び指導上参考となる諸事情

○児童生徒の成長の状況を総合的に捉え、記述する評価

13

## 新たに加わった道徳科の評価

### 道徳科の授業で見られた児童生徒の評価

児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値による評価は行わないものとする。

14

## 道徳教育と道徳科の評価

評価の公的な文書である「指導要録」の場合

### 道徳教育

教育活動全体で見られた児童生徒の道徳的な行為

### 行動の記録

### 総合所見及び指導上参考となる諸事情

### 道徳科

児童生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子

15

## 道徳科の評価の基本的態度

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育を密接な関連をはかりながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことがねらいである。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性あり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められる。

16

## 道徳科における評価の在り方

- 数値による評価ではなく記述式とすること。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- 他の児童・生徒との比較による評価ではなく、児童・生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- 学習活動において児童・生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。
- 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
- 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。

17

- ・ 児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深められているか。
- ・ 自己の(人間としての)生き方について考えを深める

これらの点を重視し、道徳科の学習活動に着目して評価する。

18

## 一面的な見方から多面的・多角的な見方へ 発展させているかどうか

- ◆ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- ◆ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- ◆ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている

19

## 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で 深めているかどうか

- ◆ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
- ◆ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している
- ◆ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めている
- ◆ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている

20

## 評価のための具体的な工夫例

- 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積したもの
- 児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- 児童生徒が行う自己評価や相互評価

21

## 組織的, 計画的な評価の推進例

- 学年ごとに評価のために集める資料や評価方法等を明確にしておく
- 評価結果について教師間で検討し, 評価の視点などについて共通理解を図る
- 評価に関する実践事例を蓄積し共有する

妥当性

信頼性

22

## これから特に配慮すべきこと

- 授業中の発言がほとんどない。
  - 文章表現が得意ではない
  - 表情にも表れにくい。
- 授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておくことが必要
  - 授業者は, 意図的に観察したり, 指名したりして, 評価できる根拠を集めることが必要

23

## 「困難さの状態」を把握した 道徳科の指導と評価への配慮

- 発達障害のある児童生徒
- 海外から帰国した児童生徒
- 日本語習得に困難のある児童生徒 等

24

道徳科の評価は他の児童(生徒)との比較による評価や目標への到達度を測る評価ではなく、一人一人の児童(生徒)が**いかに成長したか**を積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う



道徳科の評価本来の在り方を追求していくことが、一人一人の学習上の困難さに応じた評価につながる

25

## 道徳科の授業で大切にしたいこと

道徳科は、児童生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は安易なものであってはならない。

しかし、児童生徒のよい点や成長の様子などを積極的に捉え、それを日常の指導や個別指導に活かしていくよう努めなくてはならない。

そのような児童生徒の評価ができる道徳科の学習をしっかりと行っていく。

26